

序章

岡山県の北西部に位置し、広島県・鳥取県と県境を接する新見市に、過疎脱却と地域振興を主目的として、1980年4月に当時の新見市および阿哲郡4町で構成する阿新広域事務組合立新見女子短期大学（看護学科および幼児教育学科）が開学した。2011年度で31年が経過したことになる。その間、地域福祉学科の増設（1996年）、男女共学化による新見公立短期大学への名称変更（1999年）、地域看護学専攻科設置（2004年）、市町合併により新見市立へ（2005年）などを経て2008年に公立大学法人化を実施した。2005年度には、機関別認証評価を受けて「新見公立短期大学は、大学評価・学位授与機構が定める短期大学評価基準を満たしている」と判断する。」との評価を受けた。さらに、2010年4月1日に看護学科と地域看護学専攻科を改組転換して、新見公立大学看護学部を設置した。これに伴い看護学科は2010年度の、専攻科は2013年度の学生募集を停止し、それぞれ2012年および2013年の3月31日に廃止の予定である。

学生の出身地域は兵庫県以西の西日本を中心に全国に分布している。女性が多くを占め、共学化後も男子学生の割合は数%で推移している。2011年3月までに4,187人の卒業生（看護学科卒業生・専攻科修了者を含む）を送り出した。初期の卒業生には、職場の幹部・中堅職員として活躍中の者もいる。大部分は短期大学の教育目的とする保育士または幼稚園教諭、介護福祉士、看護師、保健師等の職に就いている。さらに、全国から本学に入学し、卒業後も新見市に定住した310人以上が各分野で活躍している。

教育活動について、文部科学省の「優れた取組」を支援する競争的補助金GPに応募し、2004年度1件（幼児教育学科）、2006年度3件（幼児教育学科2件（内1件は他大学との共同）、看護学科1件）、2007年度2件（看護学科）、2008年度1件（地域福祉学科）の計7件が選定された。学生等の地域における活動を基盤とする教育実践の取組が多く、補助事業期間終了後も、それぞれが継続して実施している。

社会貢献について、本学は、その設置以来、地域全体をキャンパスとし、住民とともに学び合うことを理念のひとつとしてきた。1982年から継続して公開講座を実施しているほか、「子育てカレッジ」および「生涯学習大学」への参画、本学卒業生および地域関係者等の申し出により、講演・研修・指導・助言等を実施する「地域支援センター」の設置、地元私立高等学校との連携授業、地域社会と連携したボランティア活動等を実施している。

法人の中期目標として、「専門の知識と技能を教授研究し、良き社会人として、市民の生活および文化の向上並びに地域および国際社会における保健医療、福祉の増進と幼児教育の振興に寄与する有為な人材を育成することを目的とする」ことが規定されている。今回の認証評価申請が、事業の意義や進行状況を点検評価し、再度第三者機関による認証評価を受けることにより、教育研究等の質の保証を得て社会に対する説明責任を果たすとともに、短期大学改革の基礎となることを期している。

